

1. 研究課題名

国内移入魚による生態系攪乱メカニズム究明とその監視手法の構築

2. 研究代表者氏名及び所属

鬼倉徳雄（九州大学）



3. 研究実施期間

平成 19 年～20 年度

4. 研究の趣旨・概要

国外からの外来生物の侵入は生態系を攪乱するものとして注目されているが、国内在来種が国内の他地域へ移殖されることによる生態的・遺伝的攪乱の影響については一般に極めて軽視されており対策も進んでいない。純淡水魚の場合は水系ごとに隔離され、地理的分化が進んでいるにも関わらず、漁業・遊漁目的で膨大な量の「有用魚種」が全国の河川・湖沼に放流されることで、混入した魚種とともに在来生態系を著しく攪乱している。そこで本研究では、九州北部の有明海沿岸クリーク地帯をモデルケースとして、国内移入魚が在来生態系におよぼす遺伝的・生態的影響を明らかにすることを目的とする。さらに、生態系攪乱の影響評価を行うモデル構築を行い、遺伝的攪乱による地域固有種消失を最小限に留めるための効率的なモニタリング技術の開発をおこなう。

具体的事例による国内移殖問題の啓発は、市民・行政等による対応を喚起することにもつながるため、日本国内の生物多様性保全に資することができる。また、注意を喚起するだけでなく、移殖の影響を拡げないための技術開発は、国内・国外における生物多様性保護に広く貢献することが期待できる。

5. 研究項目及び実施体制

国内移入魚による在来魚の種の多様性攪乱メカニズム究明 , リスクの予測とモデル化に関する研究（九州大学）

国内移入魚の異環境への適応性に関する研究（九州大学）

国内移入魚による遺伝的多様性攪乱メカニズムの究明とモニタリング手法の構築に関する研究（岐阜大学）

6. 研究のイメージ

国内移入魚による生態系攪乱メカニズム究明とその監視手法の構築 (RF-075)

